



ソーシャル・キャピタルに着目したユーラシアにおける国際開発協力

研究の概要

社会・文化・経済や対外関係の視点と、ソーシャル・キャピタルに注目して、中央アジアの人々の生活を向上させる方法を研究しています。10年以上、カザフスタン、ロシア、タジキスタン、ウズベキスタンなど、旧ソ連で勤務した経験を元に、地元の人々の生計向上に役立つ協力に取り組んでいます。干ばつに強いとされるサツマイモをタジキスタンに導入できないか、カザフスタンの小アラル海地域の人々の生活向上には、どのようなアプローチが有効か、などを検討しています。



(上) 環境及び社会と共生する農業の取り組みをタジキスタン招へい者と学ぶ（2024年）。

（出所：前職の鳥取大学乾燥地研究センター HP）



(右) 小アラル海の氷上で復活した漁業の様子。流量の減少で塩分濃度が上がり、漁獲量は減少している（2025年）。

研究の特徴

気候変動下において乾燥地の環境は悪化する中で、環境に適した農業の可能性、また、その農産物の栄養価値と健康への影響、さらに地域社会と調和した経済の仕組みなどについて、中央アジアを事例に検討しています。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

JST さくらサイエンスプログラムを活用して、タジキスタン科学アカデミーから学生や研究員を招へいし、日本の鳥取の干し芋加工の現場や、社会福祉法人が行う協生農法の取り組みを学び、タジキスタンにサツマイモを導入する取り組みを検討しています。

研究者からのメッセージ

タジキスタン、カザフスタン、ウズベキスタンなどの中央アジアでの取り組みを深めていく予定です。

研究分野：国際開発協力、中央アジア、ロシアを含むユーラシアにおける国際協力

研究者の所属部局・職位・氏名：和歌山大学 国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター・特任教授・飯田次郎

本件に関するお問い合わせ：liaison@ml.wakayama-u.ac.jp